

令和2年度 第1回

みどり市総合教育会議 会議録

令和2年11月9日 開会

令和2年11月9日 閉会

みどり市

令和２年度第１回みどり市総合教育会議録

令和２年１１月９日（月曜日）

日程

令和２年１１月９日（月曜日）午後２時開議

協議・調整事項

- （１）みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会の経過報告について
 - 全体スケジュール
 - 第１回から第３回検討委員会の経過報告
 - 第４回検討委員会（予定）
- （２）ＧＩＧＡスクール構想（案）について
 - １ 「ＧＩＧＡスクール構想」の実現に向けた環境整備
 - ２ 学習活動・家庭学習の充実
 - ３ 遠隔学習の充実（多様な学習）
 - ４ 特色ある英語教育（発展的な学習）
 - ５ 教職員の研修
 - ６ その他
- （３）その他

本日の会議に付した事件

日程に同じ

出席者（6人）

市長 須藤 昭 男
教育長 石井 逸 雄
職務代理者 金子 祐次郎
委員 岩野 ひろみ

委員 山同 善 子
委員 石戸 悦 史

欠席者（なし）

傍聴（なし）

説明のため出席した者

教育部長 星 野 和 弘
学校教育課長 加 部 豊
大間々学校
給食センター所長 持 箸 圭 二

教育総務課長 金 高 吉 宏
教育総務課長補佐 黒 澤 寿 一
新設校準備係長
大間々学校
給食センター主査 小 倉 敦 史

事務局職員出席者

教育総務課長補佐 正 田 一 仁

◎開会・開議

午後２時９分開会・開議

○教育部長（星野和弘） 皆さん、お揃いになりましたので、ただいまから、令和２年度第１回総合教育会議を開催させていただきます。

次第に沿いまして始めに、須藤市長よりご挨拶をいただきたいと思います。



◎市長挨拶

○市長（須藤昭男） 皆さん、こんにちは。公私共大変お忙しい中、令和２年度第１回総合教育会議にお集まりをいただき誠にありがとうございます。

また、常日ごろからそれぞれの地域、それぞれのお立場でみどり市教育行政、各般にわたりまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに対しまして、市民を代表して改めて敬意と感謝を申し上げますと思います。大変、ありがとうございます。

この総合教育会議の位置づけにつきましては、皆さんご案内のとおり地方公共団体の長、つまり私と教育委員会という対等な立場での執行機関同士の協議・調整の場であります。きょうは、このみどり市の教育を行うために課題となっている２つのテーマについて、教育委員さんと執行部との協議・調整を図りたいということで、招集をさせていただいたところでもあります。

忌憚のないご意見をお聞かせいただきながら、みどり市教育行政に反映をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本日はよろしくお願いいたします。

○教育部長（星野和弘） ありがとうございました。



◎教育長挨拶

○教育部長（星野和弘） 続きまして、教育委員会を代表して、石井教育長よりお願いいたします。

○教育長（石井逸雄） 皆さん、こんにちは。きょうは、市長と一緒に協議・調整できる大変大事な時間というふうに思っております。

日ごろから、教育行政の推進にあたっては、市長からもたくさん応援をいただいているわけでありますが、やはり大事な案件について、私たちと市長も含めて一緒に意見交換、協議・調整ができるというこの時間は大変貴重だと思っております。

また、きょう協議・調整いただく事項については、現在お願いをしております笠懸地区学校給食提供方式について検討していただいている委員会の進捗状況等についてでございます。やがて、報告結果が私たちのほうに届くようになりますので、それをしっかりと教育委員会として受け止めた上で、議論して方向性を示していかなければならない部分でございます。きょうはここでよく理解し、私たちとすればあと何を勉強しておく必要があるのか、どんなことを考えておく必要があるのかということとを共有する大切な時間になるのだらうと思っております。限られた時間ではありますが、しっ

かり意見を出し合って、実りある時間になりますようお願い申し上げまして、私からの挨拶、それからお礼に代えたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○教育部長（星野和弘） ありがとうございました。

◎教育委員自己紹介

○教育部長（星野和弘） これから、次第の3番、協議・調整事項に入るわけでございますけれども、令和2年度第1回の総合教育会議になりますので、ここで教育委員さん方の自己紹介をお願いしたいと思います。

最初に、金子教育長職務代理者からお願いいたします。

〔教育委員 自己紹介〕

○教育部長（星野和弘） ありがとうございました。

◎協議・調整事項

（１）みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会の経過報告について

○教育部長（星野和弘） それでは、次第の3番の協議・調整事項につきましては、この会議の主宰者でございます須藤市長に座長をお願いして、進めていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○市長（須藤昭男） それでは、しばらくの間、進行役を務めさせていただきます。着座にて進行させていただきます。

それでは、協議・調整事項の（１）みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会の経過報告について、教育委員会教育総務課から説明をお願いします。

○教育総務課長（金高吉宏） 教育総務課長の金高です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは着座にて説明をさせていただきます。

始めに、資料につきましては、お手元にごございます資料NO. 3、みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会の経過報告についてというレジュメ2枚ございますが、それをご用意いただきたいと思います。第1回から第3回までの検討委員会が開催されました。その内容についての経過報告と概要ということでまとめさせていただいております。

まず、第1回の委員会につきましては、令和2年8月27日、木曜日、午後3時30分から教育庁舎で行いました。出席委員12名中11名で、傍聴者が4名ということでございます。

協議内容につきましては、委員会の検討項目について、それから、みどり市の学校給食についてということでございます。事務局からの説明は、提供方式の違いに関係なく、安全安心でおいしい栄養バランスのとれた学校給食の提供を推進していくこと。次に、市内3地区の学校給食の歩みと全国と群馬県の沿革を含めて確認をしました。

また、施設の老朽化やアレルギー対応の課題の解消についての説明をし、委員さんからは、「施設の老朽化が進む給食室で基準に基づいた衛生管理を行うには建物の更新が必須となる」こと。「笠懸地区では自校方式が望ましいという感覚はあるが、試食等をして比較するなど、実態を検証する必要がある」、また、「アレルギー対応を行うには徹底した安全管理が求められる」こと等の意見がだされたところでございます。

続いて、第2回目は、令和2年9月30日、水曜日に大間々学校給食センター内を視察した後に、午後2時30分からセンター内の会議室で開催をさせていただきました。出席委員10名、傍聴者3名ということで、議事内容につきましては、みどり市の学校給食の提供方式の比較ということについてでございます。

事務局からの説明は、始めに、昨年からPTA役員会や保護者会でのアンケート結果を保護者の意見の整理についてということで資料としてお示しをさせていただきました。予算審議においては、附帯決議がついたことについても説明をさせていただいて、それらを踏まえて今後の議論を進めることとしていきたいということを説明をさせていただきました。

次に、提供方式の比較として衛生管理基準を基に2時間以内の給食やおいしい給食ができるような工夫を行っていくこと、ドライ方式とドライ運用の方式の違いについての説明も行いました。

また、GIGAスクールの運用による新たな調理員さんとの交流環境の整備の可能性についても説明を行いました。

委員さんからの意見としましては、「栄養バランスや衛生基準の適合した給食調理」、「提供については、どちらの提供方式にも差があまりない」こと、「現状の自校方式給食室の更新を行うのであれば、大間々学校給食センターと同じようにドライ式を導入することができる」こと。また、「調理場はオール電化の設備が理想的である」等の意見がだされました。

続きまして、第3回のみどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会につきましては、令和2年10月29日、木曜日に笠懸小学校にて試食を行うため、12時から開催をしました。出席委員数11名。

始めに、笠懸小学校給食室をガラス越しに見学をさせていただいて、調理風景をスライドでご確認をいただきました。12時30分から自校方式、センター方式の給食の試食を行いました。両方の給食を食べた委員さんからは、「とてもおいしかったです」という感想と、「両方とも差がないのではないか」というようなご意見をいただいているところでございます。

その後、午後1時20分から会議を開催し、傍聴者に入らせていただきまして、傍聴者の方は3名ということです。

初めの議題は、給食提供方式の概算費用の比較ということで、概算費用を算出する前提条件として、児童生徒数の推移を踏まえた施設規模とすること。必要な用地を購入する場合と私有地を活用する場合の2パターンを想定すること。アレルギー対応室設置の有無の両方を想定すること。3つを基本条件としまして、自校方式において、アレルギー対応室を設ける場合の初期投資費、イニシャルコスト

は17.4億円。年間の運用経費が約2億円と見込んで19.4億円。

次に、自校方式においてアレルギー対応室を設けない場合、初期投資費は17.1億円。年間運営経費が1.6億円と見込んで合計18.7億円としました。

そして、センター方式の初期費用としては約15.4億円。年間運営経費が1.2億円と見込んで合計16.6億円となりました。

委員さんからは、「アレルギー対応を行う必要がある児童生徒を2%と見込んでいるようだが、今後は10%まで上がるという見解もある」という内容や「対象数の増加を見込んだほうが良い」との意見、「今後、学校全体の建て替え、更新を踏まえて給食施設の更新を考える必要があり、更新に必要な用地をできれば市の土地の活用を考えたほうが良い」との意見もいただきました。

次に、各委員には、笠懸地区給食施設の課題解消に向けて、それぞれの提供方式の評価をしていただくことになりますとお伝えし、その評価をいただく評価表の検討をしていただきました。

事務局案として、提示いたしましたものは、「最終評価を行う評価表の項目について明らかにどちらの方式も満たすような内容では比較が難しいのではないか」という意見や「どちらかの魅力があるか」という視点が必要である。また、「最終評価を行うにあたり、コスト面も評価表の評価項目に含めたほうが良い」という意見。「施設の更新を行った時、安全な給食を提供するためにどちらの方式がより衛生面に優れているかなどの検証、評価を行う必要がある」とのご意見もいただき、再検討を行うということになりました。

第1回から第3回までの報告内容は、以上のとおりとなります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○市長（須藤昭男） ありがとうございます。

ただいま、事務局から3回会議を開いてきましたけれども、まず第1回の経過報告の中で、確認したいこと、疑問、あるいはご意見等ありましたら、ご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） 教育長。

○教育長（石井逸雄） 資料10ページ、学校給食の歩みという一覧表がでていますが、このところで、笠懸町、大間々町、東町のそれぞれの給食を導入してきた経緯というのが分かりますし、後ろについている資料でみますと、群馬県下におけるみどり市内の3町の給食の開始時期等も読み取れるのかなと思っているのですが、この辺についてもしっかりと考察をしていただく必要があるかなというふうに思っています。

この辺について、特に論議されたという部分はあったのでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） この部分での大きな議論は特にございませんでした。沿革については、こういうことだということで、皆さんその場でのご理解というところでの質問等は特になくて、

受け入れていただいたというのが現状でございます。

○市長（須藤昭男） 教育長。

○教育長（石井逸雄） 大変、大事な部分なのだろうと思います。最後、報告書をまとめる時には、やはりこの辺についての考察もしっかりとしていただけると、その後、検討する私たちも大変勉強になるのかなというふうに思っていますので、専門家の皆さんがこういう経緯をどうみるのかということも、もし可能であれば少しまとめていただけるとありがたいと思います。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） 今の部分に関連するのですが、現状では東町と大間々町がセンター方式、笠懸町が自校方式というように、1つの市の中で地区によって方式が違うという現実があるのですけれども、そういうあり方が1つの市として適切なのか。どちらにしても一つにしたほうがいいのではないかという意見は、委員の先生からは何かありましたでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 会議の中では、みどり市の中で制度の違いがあるということはしっかりと認識していかななくてはならないという中で、それをどういうふうな形で、1つにするためにはどうしたらいいか。例えば、経費の問題にしてもそうですし、いろいろなある制度の条件等を検討していくのが必要であろうというふうなことで話し合いが行われておりまして、どちらかに片寄ってというところの話は、特に行われておりません。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） そうしますと、いろいろな要素があるわけですが、そういうものを総合した中で2つの方式でいってもいいとか。あるいは、1つにしたほうがいいとかいう判断がでてくるというふうな理解でよろしいでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 今のところでは、第1、2、3回目といろいろなパターンに分けて比較をしまいいりましたので、その中で、最終的に総合的に判断した場合にどちらがいいかというのはこの委員会の中でしっかりと方向性をだしていく、その時々に合わせてどちらの方向というような議論というのは特になくて、自校方式も良いところがありますし、センター方式も良いところがありますし、それが新しい施設になった時には同じ条件になる。

その中で、しっかりと条件整備をして1つの方向性をだしていくのがこの会議の役割だという話し合いがされておりましたので、方向性はこれから決めるということで、その都度の会議の中では公平な議論がされているというふうに認識しています。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 食物アレルギーの対応というのは、センター方式でも自校方式でも全く同じ対応がとれる前提のお話でよろしいのでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） センターで行うということになりますと、各学校には配送という部分がでできますが、それはしっかりと学校との連携をした中で、配送の経路をしっかりとさせていただいて、届けた後にも学校との話し合いの中でしっかりとその方に渡るといような方策をとっていけば、自校方式であろうとセンター方式であろうと、同じ条件でアレルギー対応ができていくという認識で話し合いを行っています。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 仕入れの過程も調理の過程も全く同じと考えてよろしいでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 仕入れについては、確かにアレルギーのないものは仕入れられるのですけれども、調理になりますとやはりしっかりと調理室というものを設けないと、混入を防ぐというのは難しい部分があるだろうというところの差があるというのは話し合いにも出ています。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 食育の部分について、今栄養士による指導と調理員との交流というのが2つあがっているのですが、ほかに食育について具体的な話はありますか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 食育につきましては、今、食材につきましても地場産の食材を使うというところや群馬県内のおきりこみうどんですとか、そういった地場産のものを使いながら、食育をしていくという部分ですとか、みどモスの卵焼きも群馬県内で採れた卵を使ったり、実際に食べるというところについて指導する以外にも行っているところでございます。

これからは、GIGAスクールの関係での部分で1人1台の端末というふうな形になりますと、給食センターで作っている方たちとの意見交換もできるのではないかという思いであり、給食を扱う人たちとの交流も今後できていくのではないかというふうな希望を持っております。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） そうすると、食育の部分については、これから内容についてももう少し委員会の中でということではなく、方式の選択とは別に、食育についてまだまだ議論していけるというように感じていいですか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 食育について、生活習慣病ですとかいろいろなことを食育の中を含めてこれからもやっていきたいと思ひますし、この委員会でその方向まで決めるということではなく、食育はしっかりとその中でやっていくということを確認させていただいて、今後の栄養士さんとの関係、調理員さんとの関係も給食センターを中心に話し合いを進めていくということになっていくと思ひます。

○市長（須藤昭男） 石戸委員。

○委員（石戸悦史） より安全安心な給食が求められるということだと思ひますので、だいた

い給食現場でも事故に関してはヒューマンエラーというのが大半らしいのです。

こちらの資料を読ませていただいた中では、今、ドライ運用で職員の方に加重にいろいろな配慮や負担をかけながら調理をしていく上では非常に事故が起こりやすいのではないかという気がしました。その辺について議論はなされていますか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 異物混入などの部分については、マニュアルを作ってしっかりと校長先生と対応してやっているというのが1つございます。それから、センターであろうと給食室であろうと、衛生面という部分に関してはしっかりと手を洗ったり、衛生環境を独立させるようにしっかりとやった後に、調理していくというところはできているのですけれども、センターはある程度滅菌室、消毒室みたいなところがある中で、それを少しでも減らすというところはあるんですが、今の給食室の段階では、その部分は、体全体を消毒するというのはなかなか難しいものですから、細心の注意を払いながら手洗いをしたり、やっていくということがあります。

全体的に衛生面に関しては、しっかりと管理をさせていただきながらやっているのが現実で、その辺は今後も心配ないと思っています。

○委員（石戸悦史） そうするとやはり、事故が起こりやすいといえますか、そういった認識はあるという感じですか。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。そういったことが起こるということは常に頭に置きながら、やっていただきたいということで、所長以下、栄養士さんもしっかりと認識はしていただいていると思います。

○市長（須藤昭男） よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） 全員の皆さんからご意見をいただきました。ほかに、何かございますか。

○市長（須藤昭男） 石井教育長。

○教育長（石井逸雄） 私たち、新しい給食センターは皆さんもごらんになったり、私もよく見たり食べたりしているのですけれども、自校も見えてはいますが、自校方式が新しくなった形でのドライ方式になっている先進校の視察をしたいという意見が前から教育委員会の中でもだされていたと思うのです。

そんな意味では、私たちが今論議していただいている間に、どこか近隣でも結構ですから、近くで新しく自校方式の給食室を建て直したところがあると思うので、コロナの時期ですから、なるべく学校や施設に迷惑をかけないような形で、できるだけ早く、自校方式のドライ方式の調理場をしっかりと見ておけるといいと思っています。これは事務局への要望ということです。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。調整させていただきたいと思います。

○市長（須藤昭男） 視察時期も、第4回の会議の前ぐらいということですね。

○教育長（石井逸雄） そうですね。

○市長（須藤昭男） なかなか日程も厳しくなるとは思いますけれども、ぜひそういった先進地も見えておくこともいいことですね。

よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、第1回の会議の中での質問等は以上にて打ち切らせていただきます。

続いて、第2回の経過報告の中で、確認したいこと、疑問、あるいはご意見等ありましたら、ご発言をいただきたいと思います。

第2回の中からも今、質問がありましたけれども。全体の3回の報告の中で質問をいただいているようなところもありますけれども、一応、いただいているレジュメだと第1回の経過報告、第2回目の経過報告、第3回目の経過報告と分かれていますのだけれども、一括してしまっても、いいですよ

ね。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。お願いします。

○市長（須藤昭男） そうしましたら、1回目から3回目、全て事務局から説明があった部分でのご意見やご質問があれば、ご発言をいただきたいと思います。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 主な意見で、安全で安心な給食を提供するためにどちらの方式が、より衛生について優れているかという検証と評価を行う必要があるというご意見がある中で、また別の方の意見になるのかと思うのですが、アレルギー対応が必要な児童生徒は全体の中で何%見込んでいるのかというお話があって、ここに2%と答えてあるのですけれども、それについて、専門家のほうから今後はさらに割合が増加して10%まで上がるのではないかとご意見をいただいているようなのですが、最初の児童生徒の全体の2%という根拠を教えてくださいませんか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 各学校でのアレルギーの値の調査によりまして、人数を把握しておりまして、どんなアレルギーがあるかということも含めて各学校での調査を行っての集計です。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 今後、さらに10%ぐらいまで増加するのではないかとこのところについて、ご意見をいただいているようなのですが、事務局としてはどんなご意見ですか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 増加傾向にあると思いますが、しっかりと学校で各児童生徒との話し合いをしている中で対応しておりまして、少しずつふえていくことについても、アレルギー対応も最初から全部できるわけではないと思いますので、やりながらふえていく部分についても対応できればという話をしています。

○委員（山同善子） わかりました。

○市長（須藤昭男） 教育長。

○教育長（石井逸雄） アレルギーの調理の仕方もいろいろ検討されていると思うのですが、リスクを下げる、あるいは安全に配食するというのを考えた時に、1か所でまとめて調理をするという方式がいいのか。それとも、それぞれの学校にそういう施設をつくって、アレルギー対応をしていくほうがいいのか。その辺のところについての論議はされましたでしょうか。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） それにつきましては、施設自体がアレルギー対応の部屋がしっかり分かれるということがあるとすると、それぞれのところがやっていくほうがいいのであろうという見解はあります。

しかし、今現実には、学校に給食室のアレルギー対応室ができるかという、なかなか難しいのが現状です。そう考えていきますと、センターについては面積が広いですから、そこでしっかりとアレルギーに対応する部屋がおけるという状況を考えますと、リスク的には部屋があるほうが良いということなのではございますけれども、そういった部分ができるかどうかというところの差が、自校と給食センターを建てた時にはでてきますというような話し合いがされました。

○市長（須藤昭男） 教育長。

○教育長（石井逸雄） そうした中で、自校方式については古い給食室をイメージしやすいところなのではございますけれども、そうではなくて、新しいドライ方式の最新の自校方式の調理場という形を想定していけば、十分それは可能なかなと私は思っているのです。

それらを含めた時に、アレルギー対応食の望ましい配食、あるいは提供の仕方についても、今回最後までまとめた報告の中では、その辺についての一定のお考えが専門の方からいただけるとありがたいと思っていますので、その辺は、今後の議論の中で話題にさせていただけるようなことができるとすれば、お願いしたいと思っています。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） アレルギー対応は、第1回から話題になっていることでありますので、その辺はしっかりと議論できていければ良いと思っています。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） アレルギーの問題も含めて、安全安心でおいしい給食を提供するという大前提があるわけなのですが、大間々にあるセンター方式と笠懸の自校方式は施設そのものが全く比較できないぐらい内容的に違いますから、これを単純に比較することはできないのですけれども、自校方式でも各学校に大間々学校給食センターのようなものがつくれば、全くどちらも遜色のない同じような質の給食を提供できるということで、それ自体には方式による差がないという見方もできると思います。

センター方式と自校方式の違いでよく分かるのは配送時間で、センター方式は距離があるので時間をかけて運ばなければいけないという作業がでてきます。そのところは、やはり自校方式とセンター方式、同じような内容の給食が提供できても、質的に少し違う、作業的に違う部分がありますから、

その辺が比較できるようなものがあると良いと感じます。

それと、現状を踏まえた場合、今自校方式でやっているところの施設が古いですから、それを1つ1つ改修していくという作業がでてきますので、そうした時に、これを一度にできればセンターと同じ機能をすぐに発揮することができますが、現実的には短時間に一度に改修することはなかなか難しいと思います。

従いまして、時間をかけて1つ1つ改修するという作業がでるので、最初に改修して安全安心な給食を提供できる学校と、最後にやる学校では時間に差がでてきます。その間の安全安心をどう保証していったらいいかという問題もあるので、その辺も含めた最終的なまとめがあるといいと感じます。ぜひそんな方向でまとめていただけたらというふうに思います。

○市長（須藤昭男） 貴重なご意見ありがとうございます。

教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 確かにおっしゃるとおり、センター方式は配送時間があるということなのですが、これについては自校方式になるべく近づけるような方法としましては、二重食缶といったところで差がないような方法も今やっているところでございます。

先ほど、1つの給食室を直すのに何年かかるということで、5校を直すには時間がかかるということも確かにそうですし、全くセンターのように作り替えるということになりますと、面積が必要だとか、公共施設管理計画の中でも学校の改修ですとか、そういうところと絡めていく必要があると思いますので、その辺はみどり市全体の施設の管理計画も含めてやっていかなくてはならないと思っています。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） リクエストのようになってしまうのですが、今度第4回ということで、予定の中では最後の委員会になるのだと思います。

どういう方式が良いというふうに選択するのはまだ分かりませんが、両方の制度が存在するようになるのか、1つになるのか、その辺についてははっきりしない中ではありますけれども、こういう専門の方々に集まっていただいて、お話をいただいて意見を交わしていただくというのは、なかなかこれから先もできる機会は少ないと思うのです。

専門家に検討していただいて、より良い環境をつくるための構想みたいなものができあがると思うので、今金子委員さんからもお話がありましたけれども、笠懸だけでなく、みどり市全体の給食がより安全でおいしいものになるように教育委員会としてはそういうことを意識しながらこの先も進めていけたら良いと思います。

○市長（須藤昭男） ありがとうございます。

教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） ありがとうございます。その辺は、委員会の中でも教育委員さんからのご意見というところも踏まえて検討させていただきたいと思っています。

○市長（須藤昭男） 石戸委員。

○委員（石戸悦史） 差別解消法のことを専門家の皆さんからでたかは分かりませんが、ぜひ障がい者が働ける環境というものも視野に入れた議論が今後も入っていただけるとありがたいです。

なぜかという、障がいのある人たちを想定した働く場となってくると、それがしっかりバリアフリー化されていくことで、健常の方も働きやすくなっていくと思いますので、ぜひ入れていただけるとありがたいと思っています。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） ありがとうございます。その辺につきましては、委員会の中で検討させていただきたいと思います。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 第3回の資料で、自校方式に新しく建て替えた場合に、笠懸東小だったらここら辺かなという案が載っていたと思うのですが、ほかの小学校、中学校も敷地内でつくれそうな案があるとしたら、あとで教えていただきたいです。

現状、使っている給食室は取り壊すのか、そのままにするのか。今後、そこも学校として使えるものがあるのか知りたいです。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 全体的にどこに新しくつくった場合という検討は事務局のほうでさせていただいていますが、笠懸東小では駐車場を候補としてあげさせていただきました。

それについては、だいたいこれぐらいの面積が必要だということで、例としてあげさせていただいたところなのです。やはり、ここをつくってしまうと駐車場がなくなって別のところが必要になってくるということがございますので、そういった面も考えますと全体的な学校の中に新しくつくっていく敷地は難しいということです。

今の給食室は、学校の建物内に入っております、面積の不足という話もさせていただいた中では、今のところを建て替えてドライ方式にして、天井高等も確保するというふうなところは大変難しい状況でございまして、改めて別のところの用地が必要になって、そちらに建て替えというような方式をとる以外にないと思っています。

ですので、学校敷地内を使えるとする、その敷地を必要なところが別の用途に使われるとなると、またどこかの用地が必要になってくるということで、なかなか今のところに建て替えるというのは難しいであろうというふうに思っています。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 現状の給食室を学校内に新しくつくり変えた場合に、現状使っている古い給食室は、そのまま放置ということになってしまうのですか。

○教育総務課長（金高吉宏） 給食室としては使わなくなりますので、何か別の用途があるとすれば別の方法で考えていきたいと思っています。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 壊すという案は、今のところはないのですよね。

○市長（須藤昭男） 教育総務課長。

○教育総務課長（金高吉宏） 建物の躯体の中の一部としてあるところなので、そこを壊すという考えは今のところありません。

○市長（須藤昭男） よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） ほか、いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、ないようですので次に移りたいと思います。

今後の検討委員会について

○市長（須藤昭男） 次に、今後の検討委員会につきまして、教育委員会教育総務課から説明をお願いします。

○教育総務課長（金高吉宏） 次回、第4回目の検討委員会につきましては、先ほどから議論いただきました評価表の項目の確認と最終評価の実施というところでご意見をいただいて、できれば第4回目を最終という形にしたいと思います。日程は、現在調整を続けているところで、決まっております。

今後の予定としましては、資料NO. 2をごらんいただきたいと思います。黄色のところ、第4回が11月から12月の中旬にかけて日程を調整中でございます。委員会としての方向性を確認し、報告書を教育委員会に提出していただきたいというふうに考えておりまして、その後、教育委員会議での方向性を確認し、総合教育会議をもう1度開いていただきまして、意見調整を行い、教育委員会で決定していきたいと考えています。

その後、議会の説明については現状であります、年明け1月以降になってしまうと予定では考えております。日程のスケジュールについては、以上でございます。

○市長（須藤昭男） 今後の検討委員会について、委員の皆さん方からご質問ありましたら、お願いいたします。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） 第4回を年内中に開いて報告書をもらい、だしていただいた報告書に基づいて、今後教育委員会議を開催していきたい。その後、総合教育会議を開くということでよろしいですね。

○教育総務課長（金高吉宏） はい。

○市長（須藤昭男） いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、これまでの全体を通じて、委員の皆様方からご意見等がありましたらお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会の経過報告については、終了ということで、よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） 今後、検討委員会から提供方式の方向性が出されますので、教育委員会で検討され、総合教育会議でも協議・調整し共通認識を図ることになりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で（１）みどり市笠懸地区学校給食提供方式検討委員会の経過報告については、終了させていただきます。

（２）G I G Aスクール構想（案）について

○市長（須藤昭男） 続きまして、（２）G I G Aスクール構想（案）について、教育委員会学校教育課から説明をお願いします。

○学校教育課長（加部 豊） 学校教育課長の加部と申します。よろしく願いいたします。着座にて説明をさせていただきます。

学校教育課の資料NO. 1をごらんください。みどり市G I G Aスクール構想（案）について説明させていただきます。

１番のG I G Aスクール構想の実現に向けた環境整備につきましては、３点あげさせていただいております。①１人１台端末の整備、４，００９台。その中には事業支援ソフト、ミライシードが含まれております。また、②高速ネットワーク環境の整備につきましては、高速大容量のネットワーク及び無線アクセスポイント、各クラスへの充電保管庫の設置を予定しております。③につきましては、家庭や学校でのオンライン学習環境の整備、オンライン授業を行うためのカメラの整備、家庭への貸出用の無線ルーターの整備、これら３点がG I G Aスクール構想の実現に向けた環境整備となっております。

２番の学習活動、家庭学習の充実につきましては、①学習活動の充実では授業支援ソフト、ミライシードや教科書のデジタルコンテンツを活用し、日々の授業が変わってまいります。これにより、主

体的対話的で深い学びの確立を図ってまいりたいと考えております。②家庭学習の充実につきましては、デジタル教材の活用やオンライン授業、臨時休校時等のオンライン授業等を行うことにより、学びを止めない学習環境の整備を行っていきたいと考えております。

3番の遠隔学習の充実につきましては、市内の学校や海外派遣先の学校との交流学习の充実や食育の充実、さらにオンラインによる地域施設、人材の活用。これらを通して人と繋がる学習活動を広げていきたいと考えております。

なお、この遠隔学習の充実、4番の特色ある英語教育につきましては、みどり市の特色として今後力を入れていきたいと考えております。

その4番の特色ある英語教育につきましては、デジタル教科書、教材を活用した質の高い楽しい授業、また、ALTを効果的に活用した興味関心を高める活動、英検取得への支援を行い、英検3級以上に6割が挑戦し8割が合格する。このような子供たちを育てていくことを目標に取り組んでいけたらと考えております。

5番の教職員の研修につきましては、各学校でタブレット活用推進委員会を中心にオンライン環境の活用研修や授業での有効活用研修、PCスキルの取得等を行って、来年度スタートするGIGAスクール構想の充実を図ってまいりたいと考えております。

最後に、6番のその他になりますが、学校、保護者等間における連絡手段デジタル化の推進について、学校、保護者等の迅速な情報共有や負担軽減が目的となりますが、1人1台端末に含まれる機能を活用して行えるよう、今後研究を進めてまいりたいと考えております。

○市長（須藤昭男） ただいま、1「GIGAスクール構想」の実現に向けた環境整備から6「その他」について、概要説明がありました。

1、2については、これからの教育を推進していくにあたり、委員の皆さまの想いや願い等がありましたら、ご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔少し間あり〕

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 説明を受けた中で、感じたことを1つお話させていただきたいと思うのですが、学校の中でクラスで先生が1対児童生徒が25人ぐらいというと、1対1という気持ちで接しているとは思いますが、どうしても25対1とかいうイメージで進んでいく中で、この端末の導入が始まると、使い方によっては本当に1対1というような体感ができて、そういう思いで授業に臨めるのではないかなと印象を持ちました。それも使い方次第というところで、いい道具だと感じました。

それから、大学生などは遠隔の授業をリモートでやっていますが、この先まだまだ新型コロナがどのようなふう to 動くかによって、これから先、子供たちの間でも遠隔のリモート授業というものが起こることもあるかと想定した時に、リモートは突然やってくると思うのです。

リモートになった時のご家庭での負担はとても大きなものがあります。子供たちにとってはきちんと規則正しい生活をしながら授業を受けてもらっていかなければいけないというところで、今お話し

たように、家庭での協力とか、そういうものがすごく大事になってくると思うので、なるべく早くから家族の協力が得られるような説明や取り組み方のお願いを進めていけるといいと思いました。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 1対1での授業ということにつきましては、授業支援ソフトの活用をしますと、やはり1人1人の意見がその場で先生に送ることができたり、これまでなかなか発言できなかった子供もそこに書き込むことによって全員に意見を知らせたりという形で、1対1という意識で授業が行われていくと考えております。

また、遠隔授業につきましては、この後、GIGAスクールサポーター等を任用して、そちらを含めて家庭でのルールづくりなどをつくっていきますので、できるだけ早めにご家庭にも連絡をして、このような形で進めていきたいということを説明していければと思っております。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 支援ソフトを使うということなのですが、大学生が行うような先生が写って、生徒や児童が鉛筆を持って、先生と全員が講習ができるという感じに近いのですよね。支援ソフトだけでは。

それとも、先生がパソコン上に写って、先生の講習を聞いて、生徒が授業を直接受けられるということも可能なのですよね。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 今回ある授業支援ソフトというのは授業中に使うものでありまして、そちらはよくいわれているZOOMに近いような、Googleの無料ソフトClassroomというのがあります。そちらを使って遠隔によって学校で授業しているものが家庭でも写るというものを予定して研修を進めております。

○市長（須藤昭男） 石戸委員。

○委員（石戸悦史） 大変、大きなお金がかかる事業だと思うのですが、逆にこれを導入することによって、ペーパーレス化であったり、先生方が今までかかっていた意思疎通や仕事の時間の削減もできると思うのですが、その辺はどれぐらい分析されていますか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 確かに、かなりの部分で負担軽減になると思います。先ほど、その他でもありましたようなデジタル化やこれから文科省もかなり勧めてくると思います。かなりの部分で負担軽減にはなってくるとは思います。ただ、先ほど委員さんがおっしゃったような意思疎通だとか、その辺が変に削減されないような形でというのは学校も考えていかなければいけないとは思っております。

かなりの部分で削減等はされていると思いますが、この後研究していきたいと思っております。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） この中で、いろいろな家庭学習の充実や学習活動の充実という項目があげら

れているのですが、特に3番の遠隔学習の充実、4番の特色ある英語教育の充実などがあげられているのですが、今、みどり市の小学校は大きい学校と小さい学校がもの凄く格差があるという現状があります。

そういった市内学校の交流のようなところで、遠隔学習を通じて、例えばあずま小と笠懸小の交流が高まれば良いと感じます。ぜひ、その方向でいろいろ研究をしていただけたらと思います。

それから、特色ある英語教育は先駆的にみどり市でも取り上げて、あずま小で取り上げたようなのですが、そういうものを土台として、さらにこういった機会を通じて発展的に活用していただけたらというふうに思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 市内の学校につきましては、今回もいじめ防止子供会議等の事前学習でも交流等深めていって、できるだけ子供同士がさらに交流が深められるように考えていきたいと考えています。

特色ある英語教育につきましては、やはりベースとなるのはあずま小中で行っていただいているもの、そこでも質の高い楽しい授業、その辺もベースになっておりますので、それをさらに市内に広めていけたらと考えております。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 英検について、将来的には学校単位で受験ができるようになるのですか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 学校のほうにお願いして、挑戦できるように学校単位で受験を可能にしていきたいと考えております。

○市長（須藤昭男） よろしいですか。

各項目ごとにご意見をいただければと思ったのですが、これも先ほどと同じように、1番から6番まで全部の質問をお願いしたいと思います。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 英検の話で質問なのですが、英検3級以上、6割が挑戦して8割が合格とありますが、そうしますと半分ぐらいの子供たちに合格をとってもらおうということですが、これは最終目標ですよね。中学3年生の時点でというイメージですか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） はい。こちらは中学3年生で3級以上という形でありまして、現時点で受験率が35%から40%なのですね。実際に、合格率も70%をきるような形です。子供たちが今現在持っているのは実質的にいきますと25%程度になりますので、かなり高い目標になると思います。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） その他のところで、学校、保護者の迅速な情報共有という部分について、おた

よりもデジタル化していけるのではないかというお話だと思うのですが、今やっているいじめアンケートなどもこういう中に入ると、今お話ししたけど、1対1という距離感の近さが生まれてくると、いじめであったり小さな悩みであったりということに対して、先生に答えてもらえるようなチャンスがふえるのかなと思いました。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） ぜひ、その辺は活用できればと考えております。

○市長（須藤昭男） 岩野委員。

○委員（岩野ひろみ） 最近、お母さん方に聞いたのですが、学校からの一斉メールは一方的な配信で、こちらからは返信ができないので、そこでちょっとしたことでも報告ができるようになれば良いというのもお母さん方の間で意見として聞いております。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 今回の1人1台端末の機能を全部確認できていけませんので、研究して、保護者からも返信がもらえるようなしくみを検討していきたいと思います。

○市長（須藤昭男） 1人1台の端末は、基本的には学校で使うわけですね。家には持っていけないわけですね。

○学校教育課長（加部 豊） 最終的には、家庭に持ち帰るという形になってくると思います。

○市長（須藤昭男） 毎日、授業でも使って、下校時に持って帰って家でも使っているのですか。

○学校教育課長（加部 豊） はい。文科省はその辺を想定しています。

○市長（須藤昭男） 最初からですか。

○学校教育課長（加部 豊） 最初からではなくて、うちとしてもお試し期間をやったり、いろいろなルールを作って、ある程度できるのは中学生ぐらいから少しずつというのは検討はしております。

○市長（須藤昭男） わかりました。

石井教育長。

○教育長（石井逸雄） 岩野さんの意見について、課長と市長からお話があった部分と重なるのですが、私の頭の中で想定している部分については、まだ当分は学校に置いておかないとなかなか難しいのだろうと思っています。長期休業には持って帰ることになりますけれども。

そうすると、先ほど、岩野さんからもあったように、一方的でなく保護者からももらえるというのは、今の配信メールシステムを変えていかないとだめだと思います。これに合わせて、6番のところであったように、保護者に例えば提出してもらった文書を添付して返してもらうという部分については、子供が端末を持っていけないとできないので、これは多分今の保護者が持っているスマホに飛ばして、スマホから返してもらうという形も想定していかないと難しいと思っています。

その辺りが同時進行的に動いてくるので、1台端末はそれでも動くし、それ意外にも保護者が持っているスマホとの間でもやり取りができるようにならないと、先ほど山同さんがおっしゃったように、アンケートの集計や保護者から提出していただくことができなくなってくると思いますので、そこも

今研究させていますので、その辺は改めてやっていきたいと思っております。

○市長（須藤昭男） 現状では、学校からの一斉送信のメールについては保護者から回答や質問はできないわけですね。それはシステムを変えれば、それも可能ということですか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 今の配信メールでも、そこから保護者がログインすれば回答を求められるようなしくみも実はできています。

私も実際に、教育委員会でもやっているのに入ってみたのですが、結構手間がかかります。ID、パスワードを入れなくてはけません。

○市長（須藤昭男） 保護者が手間ということですか。

○学校教育課長（加部 豊） はい。忘れてしまっている方も多いと思いますが、今の配信メールも返信を求めることもできるのですが、そこにログインして返信になりますので、少し難しいシステムになっておりますので、その辺がもっと簡単にできるよう、今回入るG o o g l eのG o o g l e H o m eなどを使うと、アンケートを配信してもらってというのも学校でも少し研究しているようなところがあります。

○教育長（石井逸雄） それになってくると、G o o g l eですから子供が持っているタブレットだけではなくて、保護者が持っているスマホからG o o g l eに入っていけば戻ってくるという形をとれますので、その辺もうまく使えるような形として今後もっと動いていくと思うのですが、その辺も少し研究させています。

○市長（須藤昭男） 石戸委員。

○委員（石戸悦史） G I G Aスクール構想で発達支援教育にはどのように活用されていくのかということがなかなか見えないのですが、どういう活用の仕方、どういう工夫の仕方を想定されているのでしょうか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 発達関係につきましては、各学校に特別支援教育コーディネーターがいますので、そちらにどのようなものが必要なのかというのを検討していただいています。

さらに、わたらせ特別支援学校の特別支援教育専門アドバイザーさんとも連携して、障がいのある児童生徒はどのようなソフトや周辺機器を入れれば、その子たちが十分活用できるかというのを今検討しているところです。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） 最近の教科書の選定などにいくと中を見るのですが、QRコードが大変多くつくられています。そういうコードは、現在の授業ではかなり活用されているのでしょうか。1人1台端末を持つことによって、QRコードが生かせるのかなという思いがしました。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 今は、学校ではパソコン室の約40台と教室に持っていけるタブレッ

トは7台ぐらいしかないので難しいですが、1人1台になると教科書のQRコード等はかなり活用されるようになってくると思います。

○市長（須藤昭男） 金子委員。

○委員（金子祐次郎） そうすると、日々の授業が変わりますという中身の1つはそういうこともあるということですね。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） 現状では、授業で教科書とノートという形だと思うのですが、タブレットが入ってくると、教科書とノートとタブレットという感じになるのですか。

○市長（須藤昭男） 学校教育課長。

○学校教育課長（加部 豊） 先ほどの研修の中にもありましたように、対面授業とオンライン授業のハイブリッド化という形で、タブレットだけではなく、また教科書とノートだけではなく、先ほどの動画の中で、ノートに書いてみよう、そしてまとまったものをタブレットに打ち込みましょうというふうにして、全部に見せるような形や授業の中でタブレットを活用していくということで、それがメインになっているという形ではなく、そんな形で授業を行うと進んでいくと思います。

そうしますと、1時間の授業で全部使わなくても、少しずつでも毎時間使うような工夫をしていくと、そんなこともできてくるような、それはこの後、職員や先生方と研修をしていけたらと考えております。

○市長（須藤昭男） 山同委員。

○委員（山同善子） なかなか自分の中で経験のないことで、イメージが難しいのですが、分かりました。

○市長（須藤昭男） 石井教育長。

○教育長（石井逸雄） ドラえもののポケットではないですけども、このタブレットを持ったら全く変わってくるというふうなことはイメージが浮かびやすいのですけれども、そこにいくまでには相当、先生方が研修を積んだり重ねていかないとできないと思います。

ですので、計画とすると、しっかりとしたものを描きつつも、一挙に全部が実現するというのではないし、先ほど石戸委員さんからもあったように、先生方の省力化に繋がる部分があるのかという部分について加部課長もそう話をしましたけれども、当面はふえることのほうが多いのだろうと思っています。

ただ、そこをどうしても越えていかないとだめなんだというふうに思っています。そんな意味では、これだけ大きな構想ですので、1年でできるというものではなくて、少しずつやっていこうというところがありますから、また教育委員会等の中にも示させていただいて、やはり先ほど市長からもあったように、相当大きなお金が動いていますし、今の試算ですと年間3,000万円ぐらい維持経費がかかるというところがあります。

そうした時に、財源を発掘してこななければならないという部分ももちろんございますし、それと同

時にやったらどれだけ子供たちに返せたのかというところが私たちに問われてくるのだと思っています。その辺りの見せ方も私たちも工夫して、「この1年の取り組みでこういうことができるようになりました。保護者の皆さんいかがですか」と返せるような、そういうしくみをつくっていかないとだめなのだろうなと思っていますので、この構想ができれば、今度はアクションプランの中でどこに焦点をあててどうやっていくかというところ辺りを少し描きだしていったら、来年度はここがみどり市の子供たちが良くなったよというふうに言っていただけるようにしていかなければ、なかなか難しいのだろうと思っています。

その辺を、さらにこの構想ができればどこを焦点化していくかというところを具体的に描くようになってきますので、またその辺は教育委員会等の中で随時相談をさせていただきながら、優先順位をつけていけたらなと思っています。引き続きご意見等をいただける体制ができるといいと思っています。

○市長（須藤昭男） このGIGAスクール構想導入にあたって、私のほうからも教育委員会にお願いしたのは、例えば1日の授業日数の中で1時間とか、2時間しか1人1台のタブレットを使わないのであれば、2人に1台でいいわけですね。そうすると経費も半分で済むわけです。うまく回していけば。

それを、全児童生徒に1台ずつ配るわけですから、このタブレットというのは導入したのがゴールではなくて新たなスタートに立つわけです。これの利活用については既存のことにとらわれずに、みどり市ならではの学習、先ほど金子委員からもありましたけれども、北と南で距離的にも離れている、学校の規模も違うという、こういった中でタブレットがあることによって、様々なみどり市の知らなかったことも知ることができますので、新たなスタートとしてぜひ捉えて欲しいと思います。

ツールの1つであると思います。子供たちが授業で使う三角定規やコンパスなど、その中の1つがタブレットであって、タブレットを持ったことによってまた新たに学習の深みが増してきたり、さまざまなよりきめ細やかな教育ができるということがあるものですから、指導する立場の先生の役割はとても大事になってくると思います。

今は、子供のほうがタブレットの使い方が進んでいますので、「先生こんなこともできないのか」などというようなことがないように、今の研修を十分生かしてもらって、タブレットがきたらすぐに次の行動に移せるように、そんな教育を目指していければと思っていますので、関係各位の引き続きのご協力をお願いしたいと思っています。

それでは、GIGAスクール構想については、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、GIGAスクール構想については終了させていただきたいと思います。

（3）その他

○市長（須藤昭男） 続きまして、（３）その他でありますけれども、委員の皆さん方から、あるいは事務局のほうから何かありますでしょうか。

〔少し間あり〕

〔「事務局のほうからは特にありません」の声あり〕

○市長（須藤昭男） 委員の皆さんからは、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○市長（須藤昭男） それでは、ないようですのでその他についても終了させていただきます。



◎閉 会

○市長（須藤昭男） 委員皆さん方のご協力をいただきまして、本日の協議・調整事項については全て終了させていただきます。以上をもちまして、令和２年度第１回総合教育会議を閉会させていただきます。ご協力、ありがとうございました。

午後３時２３分開会